

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 0120-782-031 (フリーダイヤル) <a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="https://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html">https://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html</a>
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	6879

## ホームページ紹介

当社の情報はホームページでもご覧いただけます。

コーポレートサイト  
<https://www.imagicarobot.jp/>



## IRサイト

<https://www.imagicarobot.jp/ir/>



イマジカロボット

検索

# Imagica Robot Holdings Inc.

## 株主・投資家の皆さまへ

2014年4月1日 ▶ 2015年3月31日



トップメッセージ	1
特集: SDIメディアの連結子会社化	3
セグメント別の概況	5
年間トピックス	7
連結財務データ	9
会社情報/株式情報	10

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階  
TEL: 03-6741-5750



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

証券コード: 6879

## トップメッセージ

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

イマジカ・ロボットグループは、2015年2月19日に発表いたしましたとおり、4月1日付で米国のSDIメディア社を連結子会社化いたしました。これにより、新たに当社グループの事業領域にメディア・ローカライゼーション事業が加わり、売上規模は大きく拡大いたします。

イマジカ・ロボットグループはこれからも、世界最高の映像関連企業を目指し、さらなる成長を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 塚田真人



### 2015年3月期は映像ソフト事業および映像システム事業が好調

2015年3月期は、連結売上高556億51百万円(前期比8.0%増)、営業利益17億47百万円(同14.7%減)、経常利益16億64百万円(同23.6%減)、当期純利益12億46百万円(同19.0%減)となりました。

売上高は、映像ソフト事業および映像システム事業が好調で売上拡大に貢献いたしました。

映像ソフト事業は、ロボットが制作に携わったドラえもん史上初の3DCGアニメ映画「STAND BY ME ドラえもん」をはじめ、過去最多の全11作品が劇場公開し、またCM制作も好調で、前期比増収増益となりました。

映像システム事業は、主力製品の高速度ビデオカメラをはじめ新製品の販売が好調で、2期連続の過去最高益を更新いたしました。

また、放送事業は2012年のBS放送開始から営業損失が続いておりましたが、ようやく当期は黒字化いたしました。

た。独自の番組編成で運営チャンネルの差別化を図り、加入者が着実に増加するなど増収基調であります。

なお、連結全体ではSDIメディア買収関連費用約6億円を販売費及び一般管理費に計上したことにより、営業利益、経常利益、当期純利益はそれぞれ減益となりました。

### 2016年3月期はSDIメディアの連結子会社化により売上規模が大きく拡大

2015年4月より、新たにSDIメディアがグループに加わり、売上高が大きく拡大いたします。SDIメディアは、映像コンテンツを世界各国で流通させるための吹替えや字幕付け等のサービスを展開しており、お客さまである海外の大手映像関連企業との強固な関係や技術ノウハウを最大限に活かしてまいります。同社は12月決算のため、2016年3月期の業績への影響については、2015年4月から12月までの9ヶ月間の算入となり、買収に伴い発生するのれん償却額10億円を含め、売上高190億円、営業損失7億円を見込んでおりま

す。

それにより、連結売上高は760億円(前期比36.6%増)、営業利益18億円(同3.0%増)、経常利益18億円(同8.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11億円(同11.7%減)の計画であります。

### SDIメディアを除く既存事業は、3期連続で増収増益の見込み

SDIメディアを除く既存事業につきましては、売上高570億円(前期比2.4%増)、営業利益25億円(同7.2%増)と3期連続で増収増益となる計画であります。

映像技術サービス事業は、映像制作・流通分野のネットワーク化によるビジネスモデルの大きな変化の中にありますが、ファイルベース化や4K映像制作など、映像分野の技術革新を先取りすることでサービスの差別化を図り、収益力を強化してまいります。

映像ソフト事業は、映画制作本数が前期の反動で減少し減収減益となる計画ですが、CMなどの広告映像制作分野の事業を更に強化し、的確なマーケティングの実施と営業展開を図ってまいります。

放送事業は、収益力を強化するとともに、放送コンテンツの他メディア展開や、ホテルテレビ事業の収益基盤の強化と次世代ホテルソリューションへの取り組みを進めてまいります。

映像システム事業は、イメージング分野において、次世代カメラの開発体制やワールドワイドでの営業力、技術サポート力を強化するほか、プロ用映像機器分野においては、放送局への拡販とサポート体制を強化してまいります。

人材コンサルティング事業は、人材派遣事業においてメディアやイベント、教育と連動した、クリエイティブ人材

の獲得を目指すとともに、映像関連の人材事業の拡大に注力してまいります。

### 安定した配当政策を実施することを基本方針としております

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要事項のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化および経営環境の変化に対応するために必要な内部留保の充実などを勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。今後とも、中長期的な視点に立って、成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入することにより持続的な成長と企業価値の向上を図り、株主価値の増大に努めてまいります。これらの方針に基づき、当期の配当金につきましては、1株あたり15円とさせていただきます。また、次期の配当につきましても、財政状態、経営成績および内部留保の状況を総合的に判断したうえで決定いたしますが、現在のところ1株につき15円とさせていただきます。予定であります。

グループ経営理念

# MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

イマジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

imagica robot group

# 世界最大のメディア・ローカライゼーション企業 米国 SDIメディアの連結子会社化

当社は、2015年4月1日付で株式会社海外需要開拓支援機構(クールジャパン機構)および住友商事株式会社と共同で、各社が出資する特別目的会社を通じて、SDI Media Central Holdings Corp.の発行済株式の100%を1.5億USドル(約180億円)で取得しました。当社はそのうち過半数となる50.1%を取得し、連結子会社化しました。



## SDIメディアとは

SDIメディアは、映像コンテンツを世界中の国々へ流通させるための吹替えや字幕付けなどのメディア・ローカライゼーションサービスを、ハリウッドメジャーや米国を中心とした大手放送局、映画会社、製作会社など、海外の大手映像関連企業へ提供しています。

欧米やアジアなど全世界37カ国で事業を展開し、対応可能な言語数は80カ国語以上にわたり、メディア・ローカライゼーション業界では世界規模のリーディングカンパニーです。

会社名	SDI Media Group, Inc.*
本社所在地	米国カリフォルニア州
事業内容	吹替え・字幕付け、聴覚障害者向け字幕付け等
売上高	1億67百万USドル(約200億円)
従業員数	約1,100名
買収実行日	2015年4月1日付

### SDIメディアの強み

- ◆ メディア・ローカライゼーション分野で、世界No.1企業
- ◆ ハリウッドメジャーなど、顧客である海外の大手映像関連企業との強固な関係
- ◆ 37カ国にもわたるワールドワイドな事業展開
- ◆ 吹替え50言語以上、字幕制作80言語以上の広範な言語に対応

## SDIメディアを買収した理由

映像コンテンツを高画質かつ高速に配信・流通させる技術が近年進歩し、インターネットを中心とした新規メディアの増加や映像コンテンツ流通の利便性の向上が、世界規模で進んでいます。こうした市場動向の変化を新たな事業機会と捉え、当社グループの既存事業に加えてメディア・

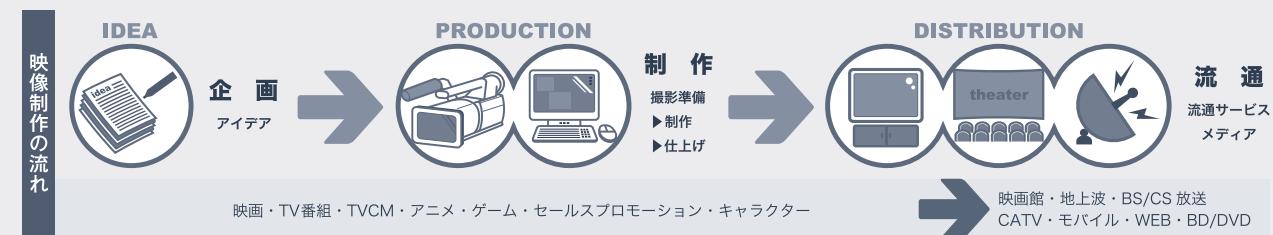
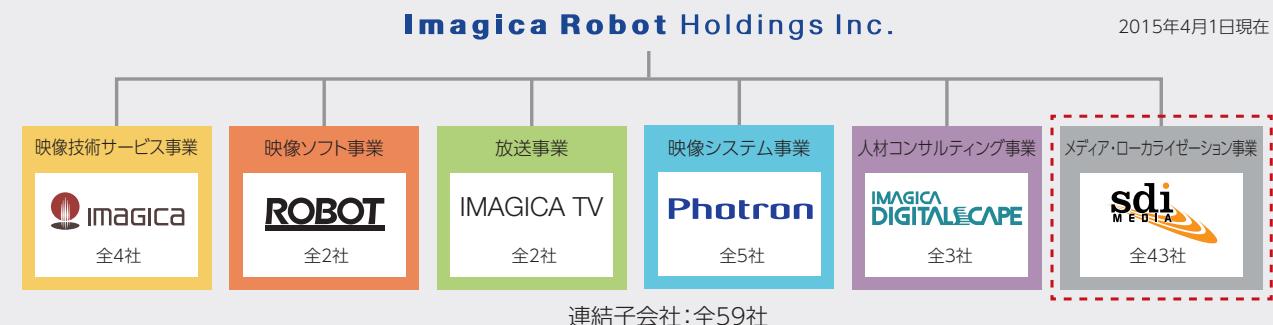
ローカライゼーション事業を拡充します。映像コンテンツの企画・制作・流通をグローバルに展開される顧客企業のニーズに応えられる商品・サービスを提供することがより一層重要になっており、これまで国内中心であった当社グループの事業体制を全世界へ展開・構築してまいります。

## 買収によって期待できる効果

これまでの5つの事業に加え、6つ目の事業としてメディア・ローカライゼーション事業を位置づけています。映像制作の流れにおいては、ポストプロダクションを行う映像技術サービス事業と、映像コンテンツ流通を行う放送事業の中間にあたる事業であります。

新たに吹替え・字幕付けサービスを開始することにより、当社グループの国内の既存のお客さまへの同サービスの

提供をはじめ、SDIメディアのお客さまである海外の大手映像関連企業に対する当社グループの既存サービスの提供、さらにはメディア・ローカライゼーションサービスの提供による新規顧客の獲得を目指します。マレーシアのポストプロダクション拠点に続き、世界マーケットへの進出をよりいっそう促進し、同時にグローバルな人材の育成と獲得を目指します。



\* SDI Media Group, Inc.は、SDI Media Central Holdings Corp.が全株を保有する事業会社です。

## セグメント別の概況

### 映像技術サービス事業



連結子会社4社

売上高 **151** 億円 営業利益 **11.4** 億円



ポストプロダクション作業におきましては、テレビ番組等の受注を中心に低調に推移しました。映画分野におきましては、デジタルシネマ関連作業での受注は低迷しましたが、旧作のアーカイブ作業は前年同期の実績を大幅に上回りました。また、市場規模の縮小により、パッケージ(DVD、ブルーレイディスク)の売上が前年同期の実績を下回りました。

連結子会社と代表者	代表者
株式会社IMAGICA	藤川 幸廣
株式会社IMAGICAウエスト	藤川 幸廣
株式会社IMAGICAイメージワークス	杉尾 壮弘
株式会社IMAGICAトータルサービス	増家 則夫

### 映像ソフト事業



連結子会社2社

売上高 **143** 億円 営業利益 **5.7** 億円



CM制作におきましては、受注本数の増加に加え大型案件を確保したことにより好調に推移し、前年同期の実績を上回りました。コンテンツ制作におきましては、劇場映画「STAND BY ME ドラえもん」「紙の月」「寄生獣」「暗殺教室」等の大型作品を制作しました。またイベント映像関連では、3Dプロジェクションマッピングの映像制作等が好調に推移いたしました。

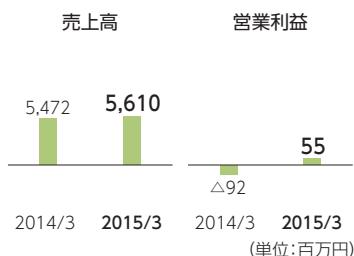
連結子会社と代表者	代表者
株式会社ロボット	加太 孝明
株式会社ピクス	中祖 眞一郎

### 放送事業



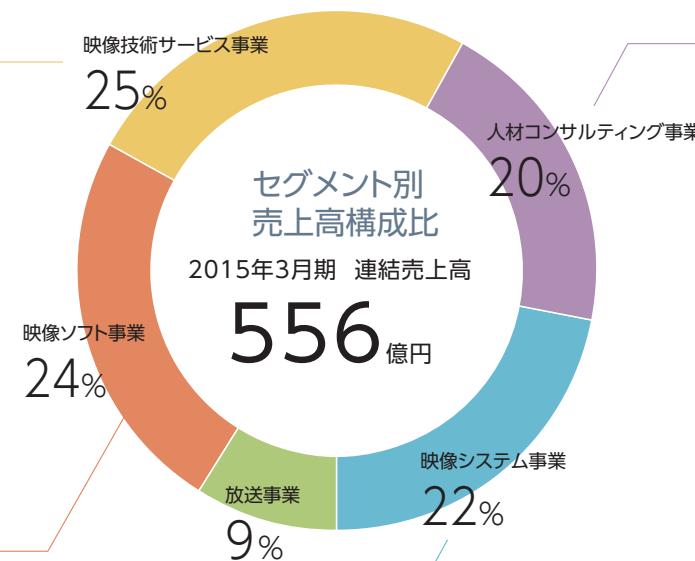
連結子会社2社

売上高 **56** 億円 営業利益 **0.5** 億円



放送分野におきましては、「イマジカBS」「歌謡ポップスチャンネル」「FOODIES TV」の3チャンネルを運営しております。「イマジカBS」は、加入者が着実に増加しており増収基調が続いております。「歌謡ポップスチャンネル」は、ケーブルテレビの加入者および広告収入が増加し、好調に推移いたしました。また、ホテル事業分野におきましては、安定的な受注と経費等の圧縮により営業利益は前年同期の実績を上回りました。

連結子会社と代表者	代表者
株式会社IMAGICA TV	伊藤 明
株式会社IMAGICA FTV	廣田 和也



### 人材コンサルティング事業



連結子会社3社

売上高 **119** 億円 営業利益 **3.2** 億円



人材派遣・請負サービス分野におきましては、主力の派遣事業では主にWEB職種やゲームエンタテインメント職種を中心に派遣者数が増加したことにより、前年同期の実績を上回りました。映像技術職種におきましても、派遣者数が増加し堅調に推移いたしました。一方、コンテンツ制作受託の分野におきましては、ゲーム制作受託案件の受注が低迷したことにより、前年同期の実績を下回りました。

連結子会社と代表者	代表者
株式会社イマジカデジタルスケープ	大林 克己
株式会社コスモ・スペース	大林 克己
株式会社イマジカ角川エディトリアル	青柳 昌行

### 映像システム事業



連結子会社5社

売上高 **129** 億円 営業利益 **13.7** 億円



イメージング分野におきましては、新製品の導入により、主力の高速度ビデオカメラの販売が、国内・海外販売ともに好調に推移し前年同期の実績を上回りました。プロ用映像機器分野におきましては、大型案件等の受注や保守収入により前年同期の実績を上回りました。またCADソリューション分野におきましては、CADシステムにおける主力の新商品の販売が堅調に推移いたしました。

連結子会社と代表者	代表者
株式会社フォトロン	布施 信夫
フォトロン メディカル イメージング株式会社	八木 秀忠
PHOTRON USA, Inc.	瀧水 隆
PHOTRON EUROPE Ltd.	Andrew Hilton
アイチップス・テクノロジー株式会社	柳井 明弘

## おかげさまで、IMAGICA創業80周年

1935年(昭和10年)2月18日、当社グループの祖業であるIMAGICAは、日本映画の聖地である京都太秦で、東洋現像所という社名で映画フィルムの現像事業を開始しました。

その間、映画のカラー化、テレビの誕生、ビデオやインターネットの登場など技術革新を伴う大きな変化とともにIMAGICAはサービス分野を拡大し、成長してまいりました。

現在はスマートフォンで映画やテレビ番組を視聴したり、インターネット上では誰もが映像作品を発表できる時代となり、映像を楽しむシーンは80年前には想像もつかないほどの変化を遂げています。この変化にも増して映像制作過程の変容は激しく大きなものでありますが、IMAGICAはこれからも、その時代の映像創りを先進の技術で支える姿勢を変えず、常に品質を追求し、お客さまとともに成長してまいる決意です。



## 第38回日本アカデミー賞で最優秀賞10冠を獲得

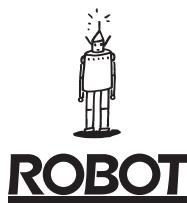
ロボットが制作に携わった映画「永遠の0」「STAND BY ME ドラえもん」「紙の月」の3作品が、第38回日本アカデミー賞で最優秀作品賞を含む10部門で最優秀賞を獲得しました。

2013年12月に公開され、半年以上ものロングランとなった「永遠の0」は最優秀作品賞を含む8冠、2014年8月公開となり、幅広い年代の皆さまからご好評いただいた3DCGアニメ「STAND BY ME ドラえもん」は最優秀賞アニメーション作品賞、同名小説を実写化し2014年11月に公開となった「紙の月」は最優秀主演女優賞を受賞しました。

また、「永遠の0」および「STAND BY ME ドラえもん」は、2014年邦画実写映画・邦画アニメーション映画でそれぞれ興行収入第1位を記録しました。



©「永遠の0」製作委員会／「STAND BY ME ドラえもん」製作委員会／「紙の月」製作委員会



## 歌謡ポップスチャンネル主催ライブ「演歌男子。LIVE ～夏祭～」開催

チャンネル初主催となる番組発ライブイベント「演歌男子。LIVE ～夏祭～」を、2014年8月、原宿クエストホールにて開催、チケットは発売即日で完売しました。イベントには山内恵介、花園直道、パク・ジュニョン、川上大輔が出演し、大盛況のうちに幕を閉じました。

2015年もさらにスケールアップし、第2弾「演歌男子。フェスティバル2015」を開催します。昨年の出演者に、松原健之、純烈、はやぶさの3組が加わり、豪華メンバーで東京・渋谷公会堂に集結。生バンドでお届けするそれぞれの最新曲はもちろん、コラボレーション曲や演歌男子たちのトークコーナーなどここでしか観ることのできないスペシャルなステージを行います。



## 歌謡ポップスチャンネル



## 「FOODIES magazine」サービス開始、食情報を毎日配信!

日本で唯一の食専門CSチャンネル「FOODIES TV」の放送番組や、番組連動コンテンツ、編集部の取材記事、食の最新ニュースなどのコンテンツを毎日配信するサービス「FOODIES magazine」を開始しました。

食と暮らしにこだわり、理想のライフスタイルを追求する本物志向の人々に向けて、良質な「食」の情報を発信します。

PC・オリジナル版の他、auスマートパス、docomoスゴ得コンテンツでも配信中です!

## FOODIES magazine



## 高速度ビデオカメラ「FASTCAM Mini」シリーズのラインナップ強化

フォトロンは、小型軽量筐体と100Gの耐衝撃性能を両立させた高速度ビデオカメラ「FASTCAM Mini UX50」を発売しました。「FASTCAM Mini」シリーズは、同社従来機に比べ大幅に小型・軽量化(体積・質量ともに従来機種比△75%)された製品で、これに耐衝撃性能を備えたことで、とりわけ自動車衝突試験の分野での使用用途が広がっています。

「FASTCAM Mini」シリーズのラインナップを強化し、世界中の研究開発部門や大学・公的研究機関のニーズに応えてまいります。



Photron

## 連結財務データ

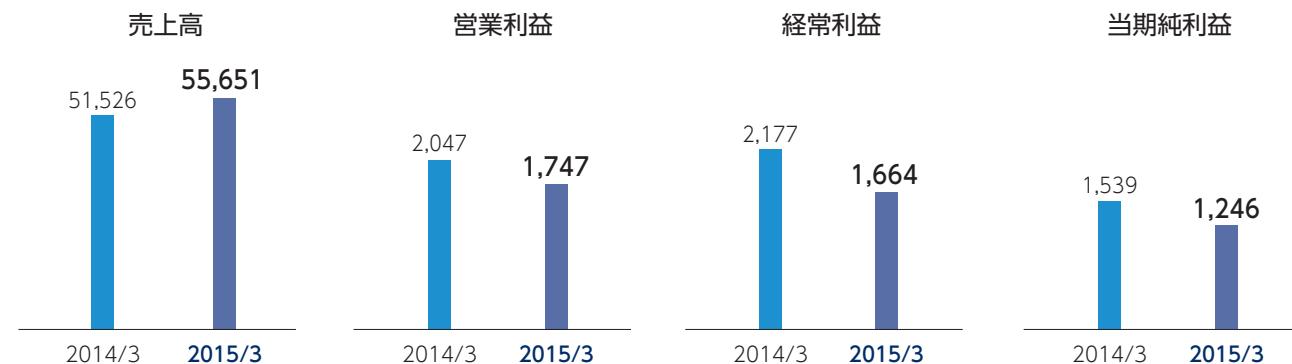
### 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 2014/3	当期 2015/3
流動資産	27,814	<b>47,986</b>
固定資産	14,231	<b>14,209</b>
資産合計	42,045	<b>62,196</b>
流動負債	12,770	<b>20,205</b>
固定負債	3,127	<b>6,963</b>
負債合計	15,897	<b>27,168</b>
株主資本	25,445	<b>26,827</b>
その他の包括利益累計額	397	<b>1,007</b>
少数株主持分	305	<b>7,192</b>
純資産合計	26,148	<b>35,027</b>
負債純資産合計	42,045	<b>62,196</b>

### 連結財務ハイライト

(単位:百万円)



### 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2014/3	当期 2015/3
売上高	51,526	<b>55,651</b>
売上総利益	14,698	<b>15,526</b>
営業利益	2,047	<b>1,747</b>
経常利益	2,177	<b>1,664</b>
当期純利益	1,539	<b>1,246</b>

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2014/3	当期 2015/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,715	<b>3,552</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,553	△ <b>1,472</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△703	<b>19,137</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	<b>32</b>
現金及び現金同等物の増減額	501	<b>21,250</b>
現金及び現金同等物の期首残高	8,124	<b>8,726</b>
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	100	—
現金及び現金同等物の期末残高	8,726	<b>29,977</b>

## 会社情報 / 株式情報 (2015年3月31日現在)

### 会社概要

商号	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス Imagica Robot Holdings Inc.
設立	1974年6月10日(創立:1935年2月18日)
本店所在地	東京都品川区
事務所 所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
資本金	32億4,491万5,250円
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 代表取締役社長 塚田真人
従業員数	1,816名(750名)

※ 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は( )内に外数で記載しております。

### 役員 (2015年6月25日現在)

代表取締役会長	長瀬 文男
代表取締役社長社長執行役員	塚田 真人
取締役常務執行役員	北出 継哉 安藤 潤
取締役	中祖 眞一郎
社外取締役	中内 重郎 佐々木 経世
執行役員	大久保 力 竹岡 峰夫 中村 昌志
常勤監査役	角田 光敏
社外監査役	杉野 翔子 岡田 光一郎

### 株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	44,531,459株 (自己株式108株を除く)
株主数	5,319名

### 大株主 (上位10名)

	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社クリアート	26,979,220	60.58
株式会社三井住友銀行	1,244,500	2.79
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	848,000	1.90
株式会社AOI Pro.	800,000	1.80
三井住友信託銀行株式会社	512,000	1.15
イマジカ・ロボット ホールディングス 従業員持株会	436,550	0.98
長瀬文男	403,200	0.91
株式会社みずほ銀行	400,000	0.90
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	373,700	0.84
株式会社TBSテレビ	320,000	0.72

※ 持株比率は自己株式数(108株)を控除して算出してあります。

### 株式の分布状況

